

79 けい光ランプによる色の演色性について

(第4報)

岐阜大学芸 中野みち枝

けい光灯の演色性については、すでに研究がすすめられているが、これらの多くは、物理学的又は心理学的な研究に偏し、両者の比較研究はきわめて少い。ことに服飾の研究にあたっては、光源の演色性はきわめて重要な意義をもつものである。この意味において演者は第1報第2報、第3報において、標準C光源、(1)マツダ昼光色けい光ランプ、(2)マツダ天然昼光色けい光ランプ、(3)マツダ天然白色けい光ランプ、(4)マツダ真天然昼光色けい光ランプ、(5)マツダ真天然白色けい光ランプを、実験材料として、日本色彩社の色紙のうち赤・黄・緑・青・紫、背景の色紙は黒・灰・赤・緑・青の試料を選びこれらの色の演色性を分光反射曲線から計算で求めた三刺激値による結果と、肉眼観測を行った心理学的実験による結果について報告をおこなったが、今回は第3報の実験結果から、視標の形を変化させて、さらに光源による色の演色性について実験を行なった結果 Hue, Value, Chroma にかかなり変化が認められたので、その結果について報告する。